SONY®

Wireless Subwoofer

取扱説明書	JP
Operating Instructions	US
Mode d’emploi	FR
Manual de instrucciones	ES

Lea este manual antes de usar el producto

お買い上げいただきありがとうございます。

⚠警告 電気製品は、安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。
この取扱説明書をよくお読みのうえ、製品を安全にお使いください。
お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

SWF-BR100

日本国内のお客様はこちらをご覧ください。

⚠警告 安全のために

ソニー製品は安全に充分配慮して設計されています。しかし、電気製品はすべて、間違った使いかたをすると、火災や感電などにより人身事故になることがあり危険です。事故を防ぐために次のことを必ずお守りください。

安全のための注意事項を守る

3～4ページの注意事項をよくお読みください。製品全般の注意事項が記載されています。
5ページの「使用上のご注意」もあわせてお読みください。

定期的に点検する

設置時や1年に1度は、電源コードに傷みがないか、コンセントと電源プラグの間にほこりがたまっていないか、プラグがしっかり差し込まれているか、などを点検してください。

故障したら使わない

動作がおかしくなったり、キャビネットや電源コードなどが破損しているのに気づいたら、すぐにお買い上げ店またはソニーサービス窓口に修理をご依頼ください。

万一、異常が起きたら

変な音・においがしたら、
煙が出たら

➡

❶ **電源を切る**

❷ **電源プラグをコンセントから抜く**

❸ **お買い上げ店またはソニーサービス窓口に修理を依頼する**

警告表示の意味

取扱説明書および製品では、次のような表示をしています。表示の内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠危険

この表示の注意事項を守らないと、火災・感電・破裂などにより死亡や大けがなどの人身事故が生じます。

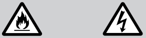
⚠警告

この表示の注意事項を守らないと、火災・感電などにより死亡や大けがなど人身事故の原因となります。

⚠注意

この表示の注意事項を守らないと、感電やその他の事故によりけがをしたり周辺の家財に損害を与えたりすることがあります。

注意を促す記号



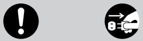
火災　感電

行為を禁止する記号



禁止　分解禁止
接触禁止　ぬれ手禁止

行為を指示する記号



指示　プラグをコンセントから抜く

⚠警告

火災 感電

下記の注意事項を守らないと火災・感電により死亡や大けがの原因となります。

湿気やほこり、油煙、湯気の多い場所や、直射日光のあたる場所には置かない

上記のような場所に置くと、火災や感電の原因となることがあります。特に風呂場などでは絶対に使用しないでください。

禁止

内部に水や異物を入れない本機の上に熱器具、花瓶など液体が入ったものやローソクを置かない

火災や感電の危険をさけるために、本機を水のかかる場所や湿気のある場所では使用しないで下さい。また、本機の上に花瓶などの水の入ったものを置かないで下さい。

本機の上に、例えば火のついたローソクのような、火炎源を置かないで下さい。

禁止

➡ 万一、水や異物が入ったときは、すぐに本体の電源ボタンを切り、電源プラグをコンセントから抜き、お買い上げ店またはソニーサービス窓口にご相談ください。

キャビネットを開けたり、分解や改造をしない

火災や感電、けがの原因となることがあります。

➡ 内部の点検や修理はお買い上げ店またはソニーサービス窓口にご依頼ください。

分解禁止

雷が鳴りだしたら、本体や電源プラグに触れない

感電の原因となります。

接触禁止

本機を日本国外で使わない

交流100Vの電源でお使いください。海外など、異なる電源電圧の地域で使用すると、火災·感電の原因となります。

指示

風通しの悪い所に置いたり、通風孔をふさいだりしない

布をかけたり、毛足の長いじゅうたんや布団の上または機器を本箱や組み込み式キャビネットのような通気が妨げられる狭いところに設置しないで下さい。壁や家具に密接して置いて、通気孔をふさぐなど、自然放熱の妨げになるようなことはしないでください。過熱して火災や感電の原因となることがあります。

禁止

電源プラグは抜き差ししやすいコンセントに接続する

本機は容易に手が届くような電源コンセントに接続し、異常が生じた場合は速やかにコンセントから抜いて下さい。通常、本機の電源スイッチを切っただけでは、完全に電源から切り離せません。

指示

電源コードを傷つけない

電源コードを傷つけると、火災や感電の原因となります。

禁止

- 設置時に、製品と壁や棚との間にはさみ込んだりしない。
- 電源コードを加工したり、傷つけたりしない。
- 重いものをのせたり、引っ張ったりしない。
- 熱器具に近づけない。加熱しない。
- 移動させるときは、電源コードを抜く。
- 電源コードを抜くときは、必ずプラグを持って抜く。

➡ 万一、電源コードが傷んだら、お買い上げ店またはソニーサービス窓口に交換をご依頼ください。

JP

⚠注意

下記の注意事項を守らないとけがをしたり周辺の家財に損害を与えたりすることがあります。

上に乗ったり、座ったりしない

落ちてけがの原因となることがあります。また、本機を傷める原因となります。

禁止

ぬれた手で電源プラグにさわらない

感電の原因となることがあります。

ぬれ手禁止

大音量で長時間つづけて聞かない

耳を刺激するような大きな音量で長時間つづけて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。

➡ 呼びかけられたら気がつくくらいの音量で聞くことをおすすめします。

禁止

安定した場所に置く

ぐらついた台の上や傾いた所などに置くと、製品が落下してけがの原因となることがあります。また、置き場所、取り付け場所の強度も充分に確認してください。

禁止

コード類は正しく配置する

電源コードやAVケーブルは足にひっかけると機器の落下や転倒などにより、けがの原因となることがあります。充分に注意して接続、配置してください。

禁止

移動させるとき、長期間使わないときは、電源プラグを抜く

長期間使用しないときは安全のため電源プラグをコンセントから抜いてください。絶縁劣化、漏電などにより火災の原因となることがあります。

プラグをコンセントから抜く

お手入れの際、電源プラグを抜く

電源プラグを差し込んだままお手入れをすると、感電の原因となることがあります。

プラグをコンセントから抜く

設置上のご注意

本機の角でけがなどをしないように、お気をつけください。

使用上のご注意

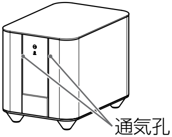
設置場所について

次のような場所には置かないでください。

- ぐらついた台の上や不安定な所。
- 毛足の長いじゅうたんや布団の上。
- 湿気の多い所、風通しの悪い所。
- ほこりの多い所。
- 特殊な塗装、ワックス、油脂、溶剤などが塗られている床に本機を置くと、床に変色、染みなどが残る場合があります。
- 直射日光が当たる所、温度が高い所。
- 極端に寒い所。
- チューナーやテレビ、ビデオデッキといっしょに使用するとき、雑音が入ったり、映像が乱れたりすることがあります。このような場合は、本機をそれらの機器から離して設置してください。
- 電子レンジや大きなスピーカーなど、強力な磁気を発するものの近く。

設置時のご注意

本機は、ハイパワーアンプを搭載しています。そのため、本機背面の通気孔をふさぐと、内部の温度が上昇し、故障の原因となることがあります。通気孔を絶対にふさがないでください。



本機の使用上の注意事項

本機の使用周波数は5GHz帯です。5GHzワイヤレス機器の屋外使用は法令により禁止されています。

ステレオを聞くときのエチケット

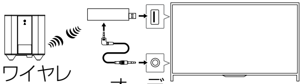


ステレオで音楽をお楽しみになるときは、隣近所に迷惑がかからないような音量でお聞きください。特に、夜は小さめな音でも周囲にはよく通るものです。
窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるなどお互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。このマークは音のエチケットのシンボルマークです。

お手入れの方法

柔らかい乾いた布で汚れをふき取ってください。
汚れがひどい場合は十分に薄めた中性洗剤を付けた固く絞った布でふき取ってください。
アルコールやベンジン等は使用しないでください。

テレビに接続する



1 オーディオケーブル(付属)をワイヤレストランシーバーに接続する。

2 オーディオケーブルの反対側をテレビのオーディオ出力⊖/🎧端子に接続する。

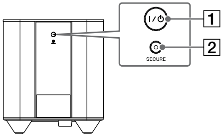
3 ワイヤレストランシーバーをテレビのUSB端子に接続する。

接続する端子位置よっては、ワイヤレストランシーバーが他の端子と干渉する場合がありますので、ご注意ください。

4 電源コードをコンセントに接続する。

サブウーファーはできるだけテレビの近くに設置することをおすすめします。

5 テレビの電源を入れると、サブウーファーも自動的に電源が入り、I/⏻ランプが緑色に点灯して、低音が出力されます。



1 I/⏻(電源)ボタン、ランプ
2 SECUREボタン

サブウーファーを使う

電源の入り切りについて

テレビの電源を入れると、自動的にサブウーファーの電源が入ります。
テレビの電源がスタンバイになると、サブウーファーも自動的にスタンバイになり、I/⏻ランプが赤色に点灯します。
テレビを見ている間、テレビのメニューからサブウーファーの電源をスタンバイにしておくこともできます。
サブウーファーの電源を切りたい時はサブウーファーのI/⏻ボタンを押して下さい。I/⏻ランプが消えサブウーファーの電源が切れます。

音質の設定について

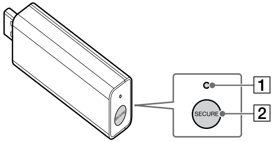
テレビのメニューで、サブウーファーの音量、カットオフ周波数、位相の調整ができます。
テレビの取扱説明書をご覧ください。

ワイヤレス接続をする機器を特定する

セキュアリンク接続を使うと、接続するワイヤレストランシーバーとサブウーファーを特定できます。
複数のワイヤレス機器をお使いのときに便利です。

1 ワイヤレストランシーバーのSECUREボタンを押す。

LEDが橙色に点滅します。



1 LED
2 SECUREボタン

2 サブウーファー背面のSECUREボタンを押す。

I/⏻ランプが橙色に点滅します。

3 双方のLEDが橙色に点灯し、サブウーファーから音が出ます。操作を中断する時はボタンを再度押します。

手順2は2分以内におこなってください。

セキュアリンク接続を解除する

ワイヤレストランシーバーのSECUREボタンを、LEDが消灯するまで数秒押し続ける。

✍
もし、サブウーファーのLEDが橙色に点滅したままの場合は、サブウーファー背面のSECUREボタンを、I/⏻ランプが緑色に点灯または点滅するまで数秒押し続ける。

JP

その他

故障かな?と思ったら

本機の調子がおかしいとき、修理に出す前にもう一度点検してください。それでも正常に動作しないときは、お買い上げ店またはソニーサービス窓口、ソニーの相談窓口にお問い合わせください。

サブウーファーからテレビの音が鳴らない。

- ワイヤレストランシーバーとテレビがオーディオケーブルで正しく接続されているか確認してください。
- テレビの音声出力を確認する。
  音声が出ていない場合、テレビの音声出力設定と音量を確認してください。
- サブウーファーの電源ランプを確認してください。
  - 消灯している場合:
    - サブウーファーの電源コードが正しく接続されているか確認してください。
    - サブウーファーの電源ボタンを押して電源を入れてください。
  - 赤色に点灯している場合:
    - サブウーファーの設置場所を確認して下さい。
    - テレビとサブウーファーを、密閉型のラックや金属製ラック、テーブルの下に設置しないでください。
    - サブウーファーをテレビの近くに設置してください。
    - ワイヤレストランシーバーがテレビに正しく接続されているか確認してください。
    - テレビのワイヤレスサブウーファー設定の電源がオートに設定されているか確認してください。
  - 緑色または橙色にゆっくり点滅、または赤色に点灯している場合:
    - セキュアリンク接続の設定をもう一度おこなってください。
    - ワイヤレストランシーバーの電波がサブウーファーに届きにくくなっている可能性があります。サブウーファーの設置場所を変えて、電源ランプが緑色または橙色に点灯するようにしてください。
  - 赤色に点滅している場合:
    - サブウーファーの電源ボタンを押して電源を切り、通気孔がふさがれていないか確認してください。
      過大な入力に対して保護機能が働いた可能性があります。テレビの音量を下げるか、またはサブウーファーレベル設定を下げてください。

サブウーファーから異音がする、音が途切れる

- サブウーファーをテレビの近くに設置してください。
- テレビとサブウーファーを、密閉型のラックや金属製ラック、テーブルの下に設置しないでください。
- 他のワイヤレス機器から離れた場所に設置してください。

サブウーファーの音が非常に小さい。

- テレビの音質·音声設定のサブウーファーレベル設定を確認してください。ニュースなど低音が極端に少ない番組では、サブウーファーからの低音は小さいか、またはほとんど聞き取れないことがあります。

保証書とアフターサービス

保証書

- この製品には保証書が添付されていますので、お買い上げの際お買い上げ店でお受け取りください。
- 所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。
- 保証期間は、お買い上げ日より1年間です。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックを

この説明書の「故障かな?と思ったら」の項を参考にして、故障かどうかを点検してください。

それでも具合の悪いときはサービス窓口へ

お買い上げ店、または本取扱説明書に記載のソニー相談窓口にご相談ください。

部品の交換について

この製品は、修理の際に交換した部品を再生、再利用する場合があります。その際、交換した部品は回収させていただきます。

保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは、保証書をご覧ください。

保証期間の経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理させていただきます。

部品の保有期間について

当社では、本製品の補修用性能部品(製品の機能を維持するために必要な部品)を、製造打ち切り後8年間保有しています。ただし、故障の状況その他の事情により、修理に代えて製品交換をする場合がありますのでご了承ください。

ご相談になるときは、次のことをお知らせください。

- 型名:SWF-BR100
- 故障の状態:できるだけ詳しく
- 購入年月日:
- お買い上げ店:

JP

主な仕様

ワイヤレスサブウーファー (SWF-BR100)

アンプ部

実用最大出力(JEITA*)
100 W、100 Hz 、4 Ω

* JEITA(電子情報技術産業協会)による測定値です。

スピーカー部

形式
サブウーファー、密閉型

使用スピーカー
200 mm コーン型

定格インピーダンス
4 Ω

一般

電源
AC 100 V、50/60 Hz

消費電力
電気用品安全法による表示: 30 W
スタンバイ状態のとき: 0.5 W以下

外形寸法(約)(幅/高さ/奥行き)
272 mm × 305 mm × 395 mm

質量(約)
12.2 kg

ワイヤレストランシーバー (UWT-BR100)

通信方式
Wireless Sound Specification version 3.0

周波数帯域
5 GHz帯(5.180/5.200/5.240 GHz)

変調方式
DSSS

電源
DC 5V

消費電力
500 mA

外形寸法(約)(幅/高さ/奥行き)
19 mm × 27 mm × 91 mm

質量(約)
25 g

付属品

オーディオケーブル(1)

仕様および外観は、改良のため、予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

よくあるお問い合わせ、窓口受付時間などは
ホームページをご活用ください。

http://www.sony.co.jp/support

使い方相談窓口	
フリーダイヤル・・・・・・・・・・・・・・・・	0120-333-020
携帯電話・PHS・一部のIP電話・・	050-3754-9577

修理相談窓口	
フリーダイヤル・・・・・・・・・・・・・・・・	0120-222-330
携帯電話・PHS・一部のIP電話・・	050-3754-9577

※取扱説明書・リモコン等の購入相談はこちらへお問い合わせください。

左記番号へ接続後、
最初のガイダンスが
流れている間に

「200」+「#」

を押してください。
直接、担当窓口へ
おつなぎします。

FAX（共通）0120-333-389

ソニー株式会社 〒108-0075 東京都港区港南1-7-1

For customers in USA and Canada

Warning

To reduce the risk of fire or electric shock, do not expose this apparatus to rain or moisture.

The unit not disconnect form the mains as long as it is connected to the AC outlet, even if unit itself has been turned off.

To reduce the risk of fire, do not cover the ventilation opening of the appliance with newspapers, tablecloths, curtains, etc.
Do not expose the appliance to naked flame sources (for example, lighted candles).

To reduce the risk of fire or electric shock, do not expose this appliance to dripping or splashing, and do not place objects filled with liquids, such as vases, on the appliance.

As the main plug is used to disconnect the unit from the mains, connect the unit to an easily accessible AC outlet. Should you notice an abnormality in the unit, disconnect the main plug from the AC outlet immediately.

Do not install the appliance in a confined space, such as a bookcase or built-in cabinet.

In door use only.

For the customers in the U.S.A

This symbol is intended to alert the user to the presence of uninsulated “dangerous voltage” within the product’s enclosure that may be of sufficient magnitude to constitute a risk of electric shock to persons.

This symbol is intended to alert the user to the presence of important operating and maintenance (servicing) instructions in the literature accompanying the appliance.

Owner’s Record

The model and serial numbers are located on the rear exterior of the unit. Record the serial numbers in the space provided below. Refer to them whenever you call upon your Sony dealer regarding this product.

Model No. SWF-BR100

Serial No. ______________________

Important Safety Instructions

1) Read these instructions.
2) Keep these instructions.
3) Heed all warnings.
4) Follow all instructions.
5) Do not use this apparatus near water.
6) Clean only with dry cloth.
7) Do not block any ventilation slit on the backside. Install in accordance with the manufacturer’s instructions.
8) Do not install near any heat sources such as radiators, heat registers, stoves, or other apparatus (including amplifiers) that produce heat.
9) Do not defeat the safety purpose of the polarized or grounding-type plug. A polarized plug has two blades with one wider than the other. A grounding type plug has two blades and a third grounding prong. The wide blade or the third prong are provided for your safety. If the provided plug does not fit into your outlet, consult an electrician for replacement of the obsolete outlet.
10) Protect the power cord from being walked on or pinched particularly at plugs, convenience receptacles, and the point where they exit from the apparatus.

11) Only use attachments/accessories specified by the manufacturer.
12) Use only with the cart, stand, tripod, bracket, or table specified by the manufacturer, or sold with the apparatus. When a cart is used, use caution when moving the cart/ apparatus combination to avoid injury from tip-over.



13) Unplug this apparatus during lightning storms or when unused for long periods of time.
14) Refer all servicing to qualified service personnel. Servicing is required when the apparatus has been damaged in any way, such as power-supply cord or plug is damaged, liquid has been spilled or objects have fallen into the apparatus, the apparatus has been exposed to rain or moisture, does not operate normally, or has been dropped.

The following FCC statement applies only to the version of this model manufactured for sale in the U.S.A. Other versions may not comply with FCC technical regulations.

NOTE:

This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class B digital device, pursuant to Part 15 of the FCC Rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference in a residential installation. This equipment generates, uses and can radiate radio frequency energy and, if not installed and used in accordance with the instructions, may cause harmful interference to radio communications. However, there is no guarantee that interference will not occur in a particular installation. If this equipment does cause harmful interference to radio or television reception, which can be determined by turning the equipment off and on, the user is encouraged to try to correct the interference by one or more of the following measures:

- Reorient or relocate the receiving antenna.
- Increase the separation between the equipment and receiver.
- Connect the equipment into an outlet on a circuit different from that to which the receiver is connected.
- Consult the dealer or an experienced radio/TV technician for help.

Properly shielded and grounded cables and connectors must be used for connection to host computers and/or peripherals in order to meet FCC emission limits.

CAUTION

You are cautioned that any changes or modifications not expressly approved in this manual could void your authority to operate this equipment.

This equipment must not be co-located or operated in conjunction with any other antenna or transmitter.

Compliance with FCC requirement 15.407(c)
Data transmission is always initiated by software, which is the passed down through the MAC, through the digital and analog baseband, and finally to the RF chip. Several special packets are initiated by the MAC. These are the only ways the digital baseband portion will turn on the RF transmitter, which it then turns off at the end of the packet. Therefore, the transmitter will be on only while one of the aforementioned packets is being transmitted. In other words, this device automatically discontinues transmission in case of either absence of information to transmit or operational failure.

Frequency Tolerance: ±20ppm or less

5.15-5.25GHz band is restricted to indoor operations only.

This equipment complies with FCC radiation exposure limits set forth for an uncontrolled environment and meets the FCC radio frequency (RF) Exposure Guidelines. This equipment should be installed and operated keeping the radiator at least 20cm or more away from person's body (excluding extremities: hands, wrists, feet and ankles).

For UWT-BR100

This device complies with part 15 of the FCC Rules. Operation is subject to the following two conditions:(1) this device may not cause harmful interference, and (2) this device must accept any interference received, including interference that may cause undesired operation.

For the customer in Canada

This device complies with Industry Canada license-exempt RSS standard(s). Operation is subject to the following two condition: (1) this device may not cause interference, and (2) this device must accept any interference, including interference that may cause undesired operation of the device.

5.15-5.25GHz band is restricted to indoor operations only.

This equipment complies with IC radiation exposure limits set forth for an uncontrolled environment and meets RSS-102 of the IC radio frequency (RF) Exposure rules. This equipment should be installed and operated keeping the radiator at least 20cm or more away from person's body (excluding extremities: hands, wrists, feet and ankles).

Properly shielded and grounded cables and connectors must be used for connection to host computers and/or peripherals.

Caution

This product is designed for use with Sony TV. You should only use this product on a compatible Sony TV. Please read these safety instructions to ensure your personal safety and prevent property damage.

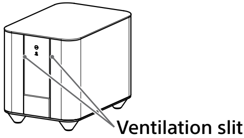
On safety

- Should any solid object or liquid fall into the subwoofer, unplug the subwoofer and have it checked by qualified personnel before operating it any further.
- Do not climb on the subwoofer, as you may fall down and injure yourself, or subwoofer damage may result.
- Before operating the subwoofer, check that the operating voltage is identical to your local power supply.
- If you are not going to use the subwoofer for a long time, be sure to disconnect the subwoofer from the wall outlet (mains). To disconnect the AC power cord (mains lead), grasp the plug itself; never pull the cord.
- AC power cord (mains lead) must be changed only at the qualified service shop.

On placement

- Place the subwoofer in a location with adequate ventilation to prevent heat buildup and prolong the life of the subwoofer.
- Do not place the subwoofer near heat sources, or in a place subject to direct sunlight, excessive dust, or mechanical shock.
- Use caution when placing the subwoofer on surfaces that have been specially treated (with wax, oil, polish, etc.) as staining or discoloration of the surface may result.
- Take care to avoid any possible injury on the corners of the subwoofer.

- Please keep the back panel (a side with the switch) away from the wall more than 5cm. Prevent something like cloth from blocking up the ventilation slit.



On operation

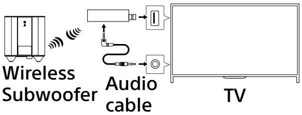
Before connecting other equipment, be sure to turn off and unplug the subwoofer.

On cleaning

Clean the subwoofer with a soft dry cloth. Do not use any type of abrasive pad, scouring powder or solvent such as alcohol or benzine.

If you have any question or problem concerning your subwoofer, please consult your nearest Sony dealer.

Setting up the Wireless System



1 Connect the audio cable (supplied) to the Wireless Transceiver.

2 Connect the other end of the audio cable to the AUDIO OUT ⇾/🎧 jack of the TV.

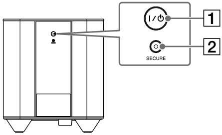
3 Connect the Wireless Transceiver to a USB port ⭠ of the TV.

The wireless transceiver may interfere with other terminals on TV physically, depending on the position of USB terminal you connected.

4 Connect the AC power cord (mains lead) from the subwoofer to the AC power outlet.

It is recommended that the Subwoofer is placed as close as possible to the TV.

5 The subwoofer will automatically turns on and the I/⏻ indicator lights in green when the TV is turned on.



1. I/⏻ (on/standby) button, indicator
2. SECURE button

US

Using the subwoofer

About the power state

The subwoofer would be turned on automatically when you turn on the TV.
Then it would enter standby mode and the I/⏻ indicator lights in red, when the TV is in standby mode.
You can also turn the subwoofer to standby mode by TV's menu, during TV is turned on.
If you want to turn off the subwoofer, you can operate by I/⏻ button on the subwoofer. I/⏻ indicator would not light up during the subwoofer is turned off.

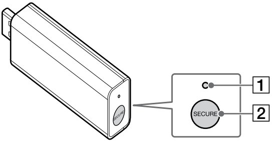
About the sound adjustment

You can adjust subwoofer level, cut-off frequency and phase by TV's menu.
Refer to the TV's instruction manual.

Activating wireless transmission between specific units

You can specify the wireless connection to be used to link the Wireless Transceiver to the subwoofer using the Secure Link function.
This function is useful when you use multiple wireless products.

1 Press SECURE button on the Wireless Transceiver (the LED indicator lights and flashes in amber).



1 LED
2 SECURE button

2 Press SECURE button on the rear of the subwoofer (the LED indicator lights and flashes in amber).

3 Both LEDs light in solid turns into amber, and the subwoofer makes bass sound.
To cancel this operation, press the button again.
Proceed the step 2 within 2 minutes.

Cancelling the Secure Link function

Press and hold SECURE button on the Wireless Transceiver for several seconds until the LED indicator turns off.

✍
If the LED indicator on the Subwoofer is still blinking amber, press and hold SECURE button on the rear of the subwoofer for several seconds until the I/⏻ indicator turns green or flashes in green.

Additional Information

Troubleshooting

If you experience any of the following difficulties while using the system, use this troubleshooting guide to help remedy the problem before requesting support. Should any problem persist, consult your nearest Sony dealer. When bringing the system in for repairs, be sure to bring in the entire system. This product is a system product, and the entire system is needed to determine the part requiring repair.

No TV sound is output from the subwoofer.

- Check the connection of the audio cable that is connected to the wireless transceiver and the TV.
- Check the sound output of the TV. When sound does not come out, confirm the sound output settings of the TV and the volume of the TV speaker.
- Check the status of I/⏻ indicator on the subwoofer:
  - Turns off.
    - Check that the AC power cord (mains lead) of the subwoofer is securely connected.
    - Turn the subwoofer on by pressing I/⏻ button on the subwoofer.

US

- Stays lit in red:
  - Check the location of the subwoofer.
  - Do not place the TV and subwoofer in a metal cabinet.
  - Place the subwoofer close to the TV in a room.
  - Make sure that the wireless transceiver is inserted correctly into the TV.
  - Please confirm that power setting of Wireless Subwoofer of TV is Auto.
- Flashes in green or amber slowly or turns red:
  - Make the Secure Link setting again.
  - Sound transmission is poor. Move the subwoofer so that the power indicator turns green or amber.
- Flashes in red:
  - Press power to turn off the subwoofer, and check that nothing is blocking the ventilation slit of the subwoofer. A protection function may act by excessive input. Please lower TV volume or the SW level.

Noise is heard from the subwoofer or sound from the subwoofer is intermittent.

- Move the subwoofer closer to the TV.
- Do not install the TV and subwoofer in a closed rack, on a metal rack, or under a table.
- Move the subwoofer away from other wireless devices.
- Avoid using any other wireless devices.

The sound output from the subwoofer is very low.

- Check the subwoofer level in the sound setting of the TV.
- With some types of content such as news there will not be a lot of bass sound, this is normal.

Specifications

Wireless Subwoofer (SWF-BR100)

Amplifier section

For U.S.A model:

(FTC)
With 4 ohms load, subwoofer channel driven, from 30 - 150 Hz; rated 45 W per channel minimum RMS power, with no more than 1% total harmonic distortion from 250 milliwatts to rated output.

POWER OUTPUT (reference)
100 W (per channel at 4 ohms, 100 Hz)

For Canadian and Mexican model:

POWER OUTPUT (rated)
70 W (4 ohms, 100 Hz, 1% THD)

POWER OUTPUT (reference)
100 W (4 ohms, 100 Hz)

Speaker System
Subwoofer, sealed enclosure

Speaker Unit
200 mm cone type

Rated impedance
4 ohms

Power requirements
120 V AC, 60 Hz

Power consumption
On: 30W
Standby mode: 0.5W or less

Dimensions (approx.) (w/h/d)
272 mm x 305 mm x 395 mm
10 3/4 in x 12 1/8 in x 15 5/8 in

Mass (approx.)
12.2kg
26 lb 14 3/10 oz

Wireless Transceiver (UWT-BR100)

Communication system
Wireless Sound Specification version 3.0

Frequency band
5GHz band (5.180/5.200/5.210/5.240GHz, 5.736/5.762/5.814GHz)
The frequency bands used depend on the country.

Modulation method
DSSS

Power requirement
5V DC

Power consumption
500 mA

Dimensions (approx.)
19 mm x 27 mm x 91 mm
3/4 in x 1 1/8 in x 3 5/8 in (w/h/d)

Mass (approx.)
25g
7/8oz

Supplied accessories

Audio cable (1)

Design and specifications are subject to change without notice.

Avertissement

Pour réduire les risques d'incendie ou de choc électrique, n'exposez pas cet appareil à la pluie ni à l'humidité.

L'appareil n'est pas déconnecté de la source d'alimentation tant qu'il reste connecté à la prise de courant, même si vous l'avez éteint.

Pour réduire les risques d'incendie, ne recouvrez pas l'ouverture d'aération de l'appareil avec des journaux, nappes, rideaux, etc.
N'exposez pas l'appareil à des sources à flamme nue (par exemple, des chandelles allumées).

Pour réduire les risques d'incendie ou de choc électrique, n'exposez pas cet appareil à un égouttement ou à des éclaboussures et ne posez aucun objet rempli de liquide, tel qu'un vase, sur l'appareil.

Étant donné que la fiche principale est utilisée pour déconnecter l'appareil de la source d'alimentation, raccordez l'appareil à une prise de courant facilement accessible. Si vous constatez que l'appareil ne fonctionne pas normalement, déconnectez immédiatement la fiche principale de la prise de courant.

N'installez pas l'appareil dans un espace clos, tel qu'une bibliothèque ou un meuble encastré.

Utilisation à l'intérieur uniquement.

Pour les clients résidant aux États-Unis



Ce symbole est destiné à renseigner l'utilisateur sur la présence à l'intérieur du boîtier de l'appareil d'une « tension dangereuse » non isolée et suffisamment puissante pour présenter un risque d'électrocution.



Ce symbole est destiné à renseigner l'utilisateur sur la présence d'importantes instructions d'utilisation et d'entretien (service) dans les documents qui accompagnent l'appareil.

Enregistrement du propriétaire

Le modèle et les numéros de série se trouvent dans la partie oblique inférieure située à l'arrière de l'appareil. Indiquez ces numéros dans l'espace prévu à cet effet ci-dessous.
Vous devrez vous y référer lors d'un appel à votre revendeur Sony au sujet de ce produit.

N° de modèle SWF-BR100

N° de série ____________________

Consignes de sécurité importantes

1) Lisez ces instructions.
2) Conservez ces instructions.
3) Respectez tous les avertissements.
4) Respectez toutes les instructions.
5) N'utilisez pas cet appareil à proximité de l'eau.
6) Nettoyez-le uniquement avec un chiffon sec.
7) N'obstruez pas les orifices de ventilation. Installez l'appareil conformément aux instructions du fabricant.
8) N'installez pas l'appareil à proximité des sources de chaleur telles que les radiateurs, les registres de chaleur, les poêles ou autres appareils (y compris les amplificateurs) produisant de la chaleur.

9) N'altérez pas le dispositif de sécurité de la fiche polarisée ou mise à la terre. Une fiche polarisée compte deux lames de largeur différente. Une fiche de type mise à la terre possède deux lames et une broche de mise à la terre. La lame la plus large ou la troisième broche assure une fonction de sécurité. Si la fiche fournie d'origine ne s'adapte pas à votre prise, faites remplacer la prise obsolète par un électricien.
10) Protégez le cordon d'alimentation des lieux de passage ou des points de pincement, en particulier au niveau des fiches, des prises de courant et de sa sortie de l'appareil.
11) Utilisez uniquement des accessoires spécifiés par le fabricant.
12) Utilisez uniquement l'appareil avec le chariot, socle, trépied, support ou table spécifié par le fabricant ou vendu avec l'appareil. Si vous utilisez un chariot, soyez prudent lorsque vous le déplacez avec l'appareil afin d'éviter toute chute susceptible de provoquer des blessures.



13) Débranchez cet appareil en cas d'orage ou d'inutilisation prolongée.
14) Confiez toutes les réparations à du personnel de service qualifié. L'appareil doit être réparé en cas de dommage quelconque, notamment lorsque le cordon d'alimentation ou sa fiche est endommagé, du liquide ou un objet a pénétré à l'intérieur de l'appareil, l'appareil a été exposé à la pluie ou à l'humidité, l'appareil ne fonctionne pas normalement ou est tombé.

La déclaration de la FCC suivante s'applique uniquement à la version de ce modèle fabriquée pour la vente aux États-Unis. Il se peut que les autres versions ne soient pas conformes aux réglementations techniques de la FCC.

REMARQUE :

Cet appareil a été testé et s'est révélé conforme aux limites des appareils numériques de Classe B, conformément à l'alinéa 15 de la réglementation FCC. Ces limites sont conçues pour assurer une protection raisonnable contre les interférences nuisibles dans une installation résidentielle. Cet appareil génère, utilise et peut rayonner de l'énergie de fréquence radio qui, en cas d'installation et d'utilisation non conformes aux instructions, peut engendrer des interférences nuisibles avec les communications radio. Il n'est toutefois pas garanti qu'aucune interférence ne surviendra dans une installation particulière. Si cet appareil altère effectivement la réception radio ou télévisée, ce qui peut être déterminé en le mettant hors tension, puis à nouveau sous tension, nous vous encourageons à essayer de remédier à la situation en prenant une ou plusieurs mesures ci-après :

- Réorientez ou repositionnez l'antenne de réception.
- Augmentez la distance qui sépare l'appareil du récepteur.
- Raccordez l'appareil à la prise d'un circuit différent de celui auquel le récepteur est raccordé.
- Sollicitez l'aide de votre revendeur ou d'un technicien en radio/télévision expérimenté.

Des câbles et connecteurs correctement blindés et mis à la terre doivent être utilisés pour le raccordement à des ordinateurs hôtes ou des périphériques afin de satisfaire aux limites d'émission de la FCC.

ATTENTION

Vous êtes prévenu que toute modification ou changement non expressément approuvé dans ce manuel peut annuler votre autorisation à utiliser cet appareil.

Cet appareil ne doit pas se trouver à proximité d'un autre émetteur ou d'une autre antenne, ou encore être utilisé en même temps que ceux-ci.

Conformité à la réglementation de la FCC 15.407(c)
La transmission de données est toujours initiée par le logiciel, puis les données sont transmises par l'intermédiaire du MAC, vers la bande de base numérique et analogique et, enfin, à la puce RF. Plusieurs paquets spéciaux sont initiés par le MAC. Ce sont les seuls moyens d'activer l'émetteur RF par le biais de la partie de bande de base numérique, qui active l'émetteur RF, puis désactive celui-ci à la fin du paquet. Par conséquent, l'émetteur demeure activé uniquement lors de la transmission d'un des paquets susmentionnés. En d'autres termes, cet appareil interrompt automatiquement la transmission en cas d'absence d'information à transmettre ou en cas de panne.

Tolérance de fréquence : 20 ppm ou moins

La bande 5,15-5,25 GHz est limitée uniquement à une utilisation à l'intérieur.

Cet appareil est conforme aux limites d'exposition au rayonnement de la FCC déterminées pour un environnement incontrôlé et répond aux recommandations d'exposition aux radiofréquences (RF) de la FCC. Cet équipement devrait être installé et opéré en gardant le radiateur à au moins 20 cm ou plus du corps d'une personne (excluant les extrémités : mains, poignets, pieds et chevilles).

Pour UWT-BR100

Cet appareil est conforme à la partie 15 des réglementations FCC. L'exploitation est autorisée aux deux conditions suivantes : (1) l'appareil ne doit pas produire de brouillage nuisible, et (2) l'utilisateur de l'appareil doit accepter tout brouillage subi, même si le brouillage est susceptible d'en compromettre le fonctionnement.

Pour les clients au Canada

Le présent appareil est conforme aux CNR d'Industrie Canada applicable aux appareils radio exempts de licence. L'exploitation est autorisée aux deux conditions suivantes: (1) l'appareil ne doit pas produire de brouillage, et (2) l'utilisateur de l'appareil doit accepter tout brouillage radioélectrique subi, même si le brouillage est susceptible d'en compromettre le fonctionnement.

La bande 5,15-5,25 GHz est limitée uniquement à une utilisation à l'intérieur.

Cet appareil est conforme aux limites d'exposition au rayonnement d'IC déterminées pour un environnement incontrôlé et répond aux règles d'exposition RSS-102 de la radiofréquence (RF) d'IC. Cet équipement devrait être installé et opéré en gardant le radiateur à au moins 20 cm ou plus du corps d'une personne (excluant les extrémités : mains, poignets, pieds et chevilles).

Des câbles et connecteurs correctement blindés et mis à la terre doivent être utilisés pour le raccordement à des ordinateurs hôtes ou des périphériques.

Mise en garde

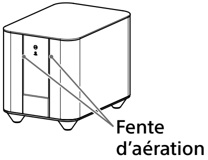
Ce produit est conçu pour être utilisé avec un téléviseur Sony. Vous devez utiliser ce produit uniquement avec un téléviseur Sony compatible.
Veuillez lire ces consignes de sécurité pour garantir votre sécurité et éviter de causer des dommages matériels.

Sécurité

- Si un objet solide ou un liquide devait pénétrer à l'intérieur du caisson infragrave, débranchez le caisson infragrave et faites-le vérifier par un technicien qualifié avant de l'utiliser de nouveau.
- Ne montez pas sur le caisson infragrave, car vous pourriez tomber et vous blesser, ou encore causer des dommages au caisson infragrave.
- Avant d'utiliser le caisson infragrave, vérifiez que sa tension de fonctionnement est identique à celle de votre alimentation électrique.
- Si vous prévoyez ne pas utiliser le caisson infragrave pendant une période prolongée, veillez à le déconnecter de la prise de courant. Pour déconnecter le cordon d'alimentation CA, saisissez la prise; ne tirez jamais sur le cordon.
- Le cordon d'alimentation CA ne doit être remplacé que dans un centre de service agréé.

Emplacement

- Installez le caisson infragrave dans un endroit suffisamment ventilé pour éviter toute surchauffe interne et prolonger la durée de vie du caisson infragrave.
- Ne placez pas le caisson infragrave à proximité d'une source de chaleur ou dans un endroit exposé à la lumière directe du soleil, à une poussière excessive ou à des chocs mécaniques.
- Faites attention lorsque vous placez le caisson infragrave sur des surfaces spécialement traitées (cirées, huilées, polies, etc.), car des taches ou une décoloration de la surface peuvent apparaître.
- Veillez à éviter tout risque de blessure possible aux angles du caisson infragrave.
- Veuillez laisser un espace de plus de 5 cm entre le panneau arrière (le côté avec l'interrupteur) et le mur. Veillez à ce qu'aucun objet tel qu'un chiffon ne bloque la fente d'aération.



Fonctionnement

Avant de raccorder d'autres équipements, assurez-vous d'éteindre et de débrancher le caisson infragrave.

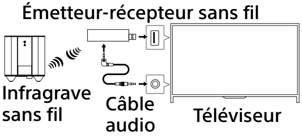
Nettoyage

Nettoyez le caisson infragrave avec un chiffon doux et sec. N'utilisez pas de tampon abrasif, de poudre à récurer ou de solvant tel que de l'alcool ou de l'essence.

Si vous avez des questions ou des problèmes concernant ce caisson infragrave, veuillez contacter votre détaillant Sony le plus proche.

FR

Configuration du système sans fil



1 Connectez le câble audio (fourni) à l'émetteur-récepteur sans fil.

2 Connectez l'autre extrémité du câble audio à la prise AUDIO OUT ⊖/🎧 du téléviseur.

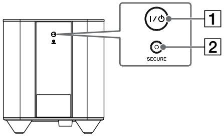
3 Connectez l'émetteur-récepteur sans fil au port USB ⭠ du téléviseur.

L'émetteur-récepteur sans fil pourrait interférer physiquement avec les autres bornes du téléviseur, selon la position de la borne USB à laquelle vous effectuez le raccordement.

4 Branchez le cordon d'alimentation CA du caisson infragrave.

Il est recommandé de placer le caisson de graves aussi près que possible du téléviseur.

5 Le caisson de graves s'active automatiquement et le témoin I/⏻ s'allume en vert lorsque le téléviseur est allumé, puis le caisson de graves reproduit les fréquences graves.



1 Touche I/⏻ (marche/veille), témoin

2 Touche SECURE

Utilisation du caisson de graves

À propos de l'état d'alimentation

Le caisson de graves s'active automatiquement lorsque vous allumez le téléviseur.
Il passe automatiquement en mode de veille et le témoin I/⏻ s'allume en rouge lorsque le téléviseur est en mode de veille.
Vous pouvez également faire passer le caisson de graves en mode de veille à partir du menu du téléviseur, pendant que le téléviseur est allumé.
Si vous souhaitez éteindre le caisson de graves, vous pouvez utiliser la touche I/⏻ sur le caisson de graves. Le témoin I/⏻ ne s'allume pas lorsque le caisson de graves est éteint.

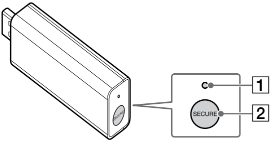
À propos du réglage sonore

Vous pouvez régler le niveau, la fréquence de coupure et la phase du caisson de graves à partir du menu du téléviseur.
Reportez-vous au mode d'emploi du téléviseur.

Activation de la transmission sans fil entre des appareils spécifiques

Vous pouvez spécifier la connexion sans fil à utiliser pour relier l'émetteur-récepteur sans fil et le caisson infragrave à l'aide de la fonction Secure Link.
Cette fonction est pratique lorsque vous utilisez plusieurs produits sans fil.

1 Appuyez sur la touche SECURE de l'émetteur-récepteur sans fil (le témoin DEL s'allume et clignote en ambre).



1 DEL
2 Touche SECURE

2 Appuyez sur la touche SECURE à l'arrière du caisson de graves (le témoin DEL s'allume et clignote en ambre).

FR

3 **Les deux témoins s’allument en ambre, puis le caisson de graves reproduit les fréquences graves. Pour annuler l’opération, appuyez de nouveau sur la touche.**

Passez à l’étape 2 dans les 2 minutes suivantes.

Annulation de la fonction Secure Link

Maintenez enfoncée la touche SECURE de l’émetteur-récepteur sans fil pendant quelques secondes jusqu’à ce que le voyant DEL s’éteigne.

✍

Si le témoin DEL du caisson infragrave clignote toujours en ambre, maintenez enfoncée la touche SECURE à l’arrière du caisson infragrave pendant plusieurs secondes jusqu’à ce que le témoin I/⏻ s’allume ou clignote en vert.

Informations supplémentaires

Dépannage

Si vous éprouvez l’une des difficultés suivantes lors de l’utilisation du système, utilisez ce guide de dépannage pour tenter de résoudre le problème avant de demander une réparation. Si le problème persiste, consultez votre détaillant Sony le plus proche. Lorsque vous apportez le système pour une réparation, assurez-vous d’apporter tous ses éléments. Ce produit forme un ensemble et tous les éléments du système sont requis pour déterminer le point nécessitant une réparation.

Aucun son du téléviseur n’est émis par le caisson de graves.

- Vérifiez le raccordement du câble audio servant à relier l’émetteur-récepteur sans fil et le téléviseur.
- Vérifiez le niveau de sortie sonore du téléviseur. Lorsque le son n’est pas émis, confirmez les réglages de sortie sonore du téléviseur et le volume du haut-parleur du téléviseur.
- Vérifiez l’état du témoin I/⏻ sur le caisson de graves :
  - Si le témoin est éteint.
    - Vérifiez que le cordon d’alimentation CA du caisson de graves est branché correctement.
    - Mettez en marche le caisson de graves en appuyant sur la touche I/⏻ du caisson de graves.

- Demeure allumé en rouge :
  - Vérifiez l'emplacement du caisson de graves.
  - N'installez pas le téléviseur et le caisson de graves dans un meuble métallique.
  - Installez le caisson de graves à proximité du téléviseur dans la pièce.
  - Assurez-vous que l'émetteur-récepteur sans fil est inséré correctement dans le téléviseur.
  - Veuillez confirmer que le réglage d'alimentation du caisson de graves sans fil est configuré à Autom. sur le téléviseur.
- Si le témoin clignote lentement en vert ou ambre, ou s'il s'allume en rouge :
  - Effectuez de nouveau le réglage Secure Link.
  - La transmission du son est de mauvaise qualité. Déplacez le caisson de graves de manière à ce que le témoin d'alimentation s'allume en vert ou ambre.
- Si le témoin clignote en rouge :
  - Appuyez sur la touche d'alimentation pour éteindre le caisson de graves, puis vérifiez qu'aucun objet ne bloque la fente d'aération du caisson de graves. Il est possible qu'une fonction de protection ait été activée par un niveau d'entrée excessif. Veuillez réduire le volume du téléviseur ou le niveau du caisson.

Le caisson de graves émet des parasites ou le son provenant du caisson de graves est saccadé.

- Réduisez la distance entre le téléviseur et le caisson de graves.
- N'installez pas le téléviseur et le caisson de graves dans une armoire fermée, sur une étagère métallique ou sous une table.
- Éloignez le caisson de graves des autres appareils sans fil.
- Évitez d'utiliser d'autres appareils sans fil.

Le niveau sonore du caisson de graves est très faible.

- Vérifiez le niveau du caisson de graves dans les réglages sonores du téléviseur.
- Pour les sources dont le contenu en fréquences graves est presque inexistant, telles que les actualités, le son est faible ou les graves sont inaudibles.

Caractéristiques techniques

FR

Infragrave sans fil (SWF-BR100)

Section amplificateur

Pour le modèle aux États-Unis :

(FTC)
Avec une charge de 4 ohms, le canal du caisson de graves étant alimenté, de 30 à 150 Hz; puissance efficace RMS minimale de 45 W par canal, avec une distorsion harmonique totale inférieure ou égale à 1 %, de 250 milliwatts à la puissance de sortie nominale.

PUISSANCE DE SORTIE (référence)
100 W (par canal à 4 ohms, 100 Hz)

Pour le modèle au Canada et au Mexique :

PUISSANCE DE SORTIE (nominale)
70 W (4 ohms, 100 Hz, 1 % DHT)

PUISSANCE DE SORTIE (référence)
100 W (4 ohms, 100 Hz)

Système d'enceinte
Caisson de graves, enceinte scellée

Haut-parleur
200 mm de type conique

Impédance nominale
4 ohms

Alimentation électrique

120 V CA, 60 Hz

Consommation électrique
En marche : 30 W
En mode de veille : 0,5 W ou moins

Dimensions (approx.) (l/h/p)
272 mm x 306 mm x 395 mm
10 3/4 po x 12 1/8 po x 15 5/8 po

Poids (approx.)
12,2 kg
26 livres 14 3/10 oz

Émetteur-récepteur sans fil (UWT-BR100)

Système de communication
Spécification audio sans fil version 3.0

Bande de fréquence
Bande 5 GHz
(5,180/5,200/5,210/5,240 GHz, 5,736/5,762/5,814 GHz)
Les bandes de fréquence pouvant être utilisées varient selon le pays.

Méthode de modulation
DSSS

Alimentation
5 V CC

Consommation électrique
500 mA

Dimensions (approx.)
19 mm x 27 mm x 91 mm
3/4 po x 1 1/8 po x 3 5/8 po (l/h/p)

Poids (approx.)
25 g
7/8 oz

Accessoires fournis

Câble audio (1)

La conception et les caractéristiques techniques sont sujettes à modification sans préavis.

Para clientes en México

Nombre del producto:
Altavoz de subgraves activo
Modelo: SWF-BR100

IMPORTANTE
POR FAVOR LEA DETALLADAMENTE ESTE MANUAL DE INSTRUCCIONES ANTES DE CONECTAR Y OPERAR ESTE EQUIPO. RECUERDE QUE UN MAL USO DE SU APARATO PODRÍA ANULAR LA GARANTÍA.

Advertencia

Para reducir el riesgo de incendio o descarga eléctrica, no exponga este aparato a la lluvia o la humedad.

La unidad no se desconecta de la red de suministro mientras esté conectada a la toma de ca, incluso si la unidad misma ha sido apagada.

Para reducir el riesgo de incendios, no bloquee los orificios de ventilación del aparato con diarios, manteles, cortinas, etc.
No exponga el aparato a llamas descubiertas (tales como velas encendidas).

Para reducir el riesgo de incendio o descarga eléctrica, no exponga este dispositivo a goteos o salpicaduras y no coloque objetos llenos de líquido, como vasos, sobre el dispositivo.

Ya que el enchufe de red se utiliza para desconectar la unidad de la red de suministro, conecte la unidad a una toma de ca fácilmente accesible. Si nota alguna anormalidad en la unidad, desconecte el enchufe de red de la toma de ca de inmediato.

No instale el dispositivo en un espacio reducido, como una estantería o un armario empotrado.

Solo para uso en interiores.

AVISO IMPORTANTE PARA MÉXICO

La operación de este equipo está sujeta a las siguientes dos condiciones: (1) es posible que este equipo o dispositivo no cause interferencia perjudicial y (2) este equipo o dispositivo debe aceptar cualquier interferencia, incluyendo la que pueda causar su operación no deseada.
Para consultar la información relacionada al número del certificado, refiérase a la etiqueta del empaque y/o del producto.

Precaución

Este producto está diseñado para ser utilizado con televisores Sony. Debe utilizar este producto solamente con un TV Sony compatible.
Lea estas instrucciones de seguridad para garantizar su seguridad personal y evitar daños a la propiedad.

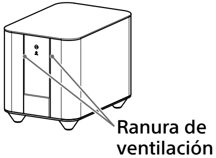
Acerca de la seguridad

- Si algún objeto sólido o líquido cae dentro del Subwoofer, desenchúfelo y hágalo revisar por personal calificado antes de seguir utilizándolo.
- No se suba al Subwoofer ya que puede caerse y lastimarse o dañar el Subwoofer.
- Antes de poner el Subwoofer en funcionamiento, compruebe que la tensión de funcionamiento sea equivalente al suministro de energía local.

- Si no va a utilizar el Subwoofer por un largo tiempo, asegúrese de desconectarlo de la toma de corriente de la pared (red de suministro). Para desconectar el cable de alimentación de ca (cable de la red de suministro), tome el enchufe, nunca tire del cable.
- El cable de alimentación de ca (cable de la red de suministro) debe cambiarse solo en una tienda de servicios calificada.

Acerca de la ubicación

- Coloque el altavoz de graves en un lugar que cuente con ventilación adecuada para prevenir el calentamiento y prolongar la vida útil del Subwoofer.
- No ubique el Subwoofer cerca de fuentes de calor o en un lugar sujeto a la luz solar directa, polvo excesivo o impactos mecánicos.
- Tenga cuidado al colocar el Subwoofer en superficies que han recibido un tratamiento especial (con cera, grasa, aceite, etc.) ya que puede hacer que la superficie se manche o decolore.
- Tenga cuidado para evitar posibles daños en los bordes del Subwoofer.
- Mantenga el panel trasero (donde se encuentra el interruptor) a más de 5 cm de distancia de la pared. Evite que objetos como telas tapen las ranuras de ventilación.



Acerca del funcionamiento

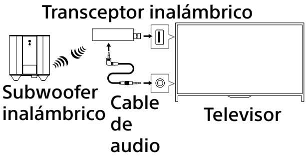
Antes de conectar otros equipos, asegúrese de apagar y desconectar el Subwoofer.

Acerca de la limpieza

Limpie el Subwoofer con un paño suave y seco. Ni utilice ningún tipo de esponja, polvo o solvente abrasivo, como alcohol o bencina.

Si tiene alguna pregunta o experimenta problemas relacionados a su Subwoofer, póngase en contacto con el vendedor de Sony más cercano.

Configurar el sistema inalámbrico



1 Conecte el cable de audio (suministrado) al Transceptor inalámbrico.

2 Conecte el otro extremo del cable de audio a la toma SALIDA DE AUDIO ⊖/🎧 del televisor.

3 Conecte el Transceptor inalámbrico al puerto USB ⭠ del televisor.

Es posible que el transceptor inalámbrico interfiera físicamente con otros terminales en el TV, según la posición del terminal USB que haya conectado.

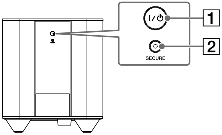
ES

4 Conectar el cable de alimentación de ca (cable de la red de suministro) del Subwoofer.

✍

Se recomienda colocar el altavoz de graves lo más cerca posible del TV.

5 El subwoofer se enciende de forma automática y el indicador I/⏻ se ilumina de color verde cuando el TV está encendido, luego, el subwoofer hace un sonido grave.



1 I/⏻ (encendido/en espera) botón, indicador

2 Botón SECURE (seguro)

Cómo utilizar el subwoofer

Información sobre el estado de la energía

El subwoofer se debería encender de forma automática cuando enciende el TV.
Luego, cuando el TV se encuentra en modo de espera, entra en modo de espera de forma automática y el indicador I/⏻ se ilumina de color rojo.
También puede hacer que el subwoofer entre en modo de espera desde el menú del televisor, mientras el TV está encendido.
Si desea apagar el subwoofer, puede utilizar el botón I/⏻ del subwoofer. El indicador I/⏻ no se iluminará mientras el subwoofer está apagado.

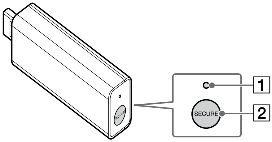
Información sobre el ajuste de sonido

Puede ajustar los niveles del subwoofer, la fase y la frecuencia de corte desde el menú del TV. Consulte el manual de instrucciones del TV.

Activación de transmisión inalámbrica entre unidades específicas

Usted puede especificar la conexión inalámbrica que desea utilizar para conectar el Transceptor inalámbrico al Subwoofer mediante la función Conexión Segura.
Esta función resulta útil cuando utiliza varios productos inalámbricos.

1 Presione el botón SECURE (seguro) del transceptor inalámbrico (el indicador LED se ilumina y parpadea en color ámbar).



1 LED
2 Botón SECURE (seguro)

2 Presione el botón SECURE (seguro) en la parte trasera del subwoofer (el indicador LED se ilumina y parpadea en color ámbar).

3 Ambos indicadores LED se iluminan de color ámbar y el subwoofer hace un sonido grave. Para cancelar la operación, presione el botón nuevamente.

Siga con el paso 2 dentro de dos minutos.

Cancelación de la función Conexión Segura

Mantenga pulsado el botón SECURE del transceptor inalámbrico durante varios segundos hasta que el indicador LED se apague.

Si el indicador LED del Subwoofer todavía parpadea de color ámbar, mantenga presionado el botón SECURE (seguro) que se encuentra en la parte trasera del Subwoofer durante varios segundos hasta que el indicador de I/⏻ se ilumine o parpadee de color verde.

ES

Información adicional

Resolución de problemas

Si experimenta cualquiera de las siguientes dificultades mientras utiliza el sistema, utilice la guía de resolución de problemas para ayudar a solucionar el problema antes de solicitar reparaciones. Si algún problema persiste, póngase en contacto con su vendedor Sony más cercano. Cuando lleve el sistema a reparar, asegúrese de llevar el sistema completo. Este producto es un producto con sistema y se necesita el sistema completo para determinar la ubicación que necesita reparación.

El sonido del televisor no sale por el Subwoofer.

- Verifique la conexión del cable de audio que esta conectado al transceptor inalámbrico y al televisor.
- Verifique la salida de sonido del TV. Cuando el TV no emita sonido, confirme los ajustes de salida de sonido y el volumen del altavoz del TV.
- Compruebe el estado del indicador I/⏻ en el subwoofer:
  - Si está apagado.
    - Verifique que el cable de alimentación de ca (cable de la red de suministro) del Subwoofer esté conectado firmemente.
    - Encienda el subwoofer presionando el botón I/⏻.
  - Se mantiene encendido en color rojo:
    - Compruebe la ubicación del subwoofer:
    - No coloque el TV y el subwoofer en un mueble de metal.
    - Coloque el subwoofer cerca del TV en una habitación.
    - Asegúrese de que el transceptor inalámbrico esté insertado correctamente en el televisor.
    - Verifique que la configuración de encendido del Subwoofer inalámbrico del televisor sea Auto.
  - Si parpadea de color verde o ámbar lentamente o si se ilumina de color rojo:
    - Vuelva a configurar Conexión Segura.
    - La transmisión de sonido es mala. Mueva el Subwoofer para que el indicador de encendido se vuelva verde o ámbar.
  - Si parpadea de color rojo:
    - Presione el interruptor de encendido para encender el Subwoofer y verifique que las ranuras de ventilación del Subwoofer no estén bloqueadas. Es posible que una función de protección actúe mediante una entrada excesiva. Baje el volumen del televisor o el nivel del Subwoofer.

El Subwoofer emite interferencias o el sonido salta.

- Instale el televisor y el Subwoofer uno cerca del otro.
- No instale el televisor y el Subwoofer en una estantería cerrada, en una estantería de metal o debajo de una mesa.
- Aleje el Subwoofer de otros dispositivos inalámbricos.
- Evite usar otros dispositivos inalámbricos.

Solo un sonido muy bajo del subwoofer.

- Verifique el nivel del Subwoofer en la configuración de sonido del televisor.
- En la fuente en la cual casi no se incluye el tono bajo, como las noticias, escucha un sonido leve o no escucha graves.

Especificaciones

Altavoz de subgraves activo (SWF-BR100)

Sección del amplificador

Para el modelo de EE. UU.:
POTENCIA DE SALIDA (referencia)
100 W (por canal a 4 ohms, 100 Hz)

Para el modelo canadiense y mexicano:
POTENCIA DE SALIDA (nominal)
70 W (4 ohms, 100 Hz, 1% THD)

POTENCIA DE SALIDA (referencia)
100 W (4 ohms, 100 Hz)

Sistema de altavoces
Subwoofer, caja cerrada

Unidad de altavoces
Tipo cono de 200 mm

Impedancia nominal
4 ohms

Requisitos de alimentación
ca 120 V 60 Hz

Consumo de potencia
Encendido: 30 W
Modo de espera: 0,5 W o menos

Dimensiones (aprox.) (An/Alt/Prof)
272 mm x 306 mm x 395 mm
10 3/4 pulg. x 12 1/8 pulg. x 15 5/8 pulg.

Peso (aprox.)
12,2 kg
26 libras, 14 3/10 onzas

Transceptor inalámbrico (UWT-BR100)

Sistema de comunicación
Especificaciones de sonido inalámbrico
versión 3.0

Banda de frecuencia
Banda de 5 GHz
(5,180/5,200/5,210/5,240 GHz, 5,736/5,762/5,814 GHz)
Las bandas de frecuencia que se deben utilizar varían según el país.

Método de modulación
DSSS

Requisitos de alimentación
cc 5 V 500 mA

Dimensiones (aprox.) (An/Alt/Prof)
19 mm x 27 mm x 91 mm
3/4 pulg. x 1 1/8 pulg. x 3 5/8 pulg.

Peso (aprox.)
25 g
7/8 onzas

Accesorios suministrados
Cable de audio (1)

El diseño y las especificaciones están sujetos a modificaciones sin previo aviso.

Glosario de términos
Auto.: Automático
LED: Diodo Emisor de Luz
RMS: Raíz Media Cuadrática
Subwoofer: Altavoz de subgraves activo
TV: Televisor
USB: Puerto Serial Universal

http://www.sony.net/
4-488-516-**41**(1)
Printed in Malaysia

* 4 4 8 8 5 1 6 4 1 * (1)